

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中央区小笹3丁目計画	階数	地上10F
建設地	福岡県福岡市中央区小笹三丁目12	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	379 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2019年10月18日
敷地面積	5,171 m ²	作成者	渡邊 浩之
建築面積	1,713 m ²	確認日	2019年10月21日
延床面積	9,514 m ²	確認者	一色 美昭



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 快適な住空間と環境負荷の低減に取り組み、地球温暖化とヒートアイランド現象の緩和に努めた。		その他 特になし
Q1 室内環境 遮音性の高いサッシュ、界壁を採用し、空調負荷の低減を図るとともに、住戸プライバシーに配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料や、節水機器を使用し、建物の長寿命化、水資源の保護に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 隣地境界部や接道部分に植栽を計画し、建物の配置や形態も、街並みに調和するように配慮した。
LR1 エネルギー 設備システムの高効率化に配慮するとともに、各住戸の採光と通風を確保するように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水器具や省水型機器の利用により、節水を図っている。	LR3 敷地外環境 省エネ設備を採用するなど、CO ₂ の抑制を図った。又、敷地内通風や敷地内緑化による、敷地外のヒートアイランド現象の緩和に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される